

宇部興産ビル

UBE KOSAN BUILDING

所在地——— 山口県宇部市相生町 8 - 1

建築主——— 宇部興産ビル株式会社

設計者——— 村野・森建築事務所

施工者——— 大成建設株式会社
株式会社大林組

竣工——— 1983年10月29日

location——— Ube City, Yamaguchi Prefecture

owner——— Ube Kosan Building Ltd.

architects——— Murano and Mori, Associates Architects

contractors——— Taisei Corporation
Ohbayashi Corporation

completion date——— October, 1983





外壁詳細 Detail of the outer walls.



エントランス回りピロティ Piloti leading to the hotel entrance.



ラウンジ Lounge.

建築概要

敷地面積 9,085㎡

建築面積 4,311㎡

延床面積 28,736㎡

構造 高層棟地下：鉄骨鉄筋コンクリート造

高層棟地上・低層棟：鉄骨造

規模 地下2階 地上15階 塔屋1階

用途 ホテル 貸事務所 会議室

仕上げ概要

外部仕上げ 外壁：アメリカ産花崗石・マホガニーレッド石打込みPC板・アルミキャストパネルコールテン銅パネル・アルミパネル等 建具：主として銅製建具ペイント

内部仕上げ 客室 床：フェルト下地ジュール⑦7mm敷込み 壁：PX-65.40 2枚建てGW充填ビニールクロス貼り 天井：PB⑦12mmの上ラフトン吹付け 浴室 床：FRP仕上げ（シングル ツイン） 壁・天井：塩化ビニール鋼板 大会議室 床：軽量コンクリートの上クイックフローフェルトジュール⑦7mm敷込み 壁：LGS下地PB⑦12mm+不燃PB⑦9mm（GW充填）の上アルミ箔貼り 天井：LGS下地⑦12mm+不燃PB⑦9mmの上ラフトン銀色吹付け 前面／溝型化粧格子（スチール曲物ペイント）ロビー 床：モルタル下地フェルトジュール敷込み一部フィリピン産テレサページュ大理石貼り 壁：フィリピン産テレサページュ大理石貼り 天井：PB⑦12mm+RB⑦12mm

設備概要

空調 方式：高層部ホテル客室／ファンコイルユニット+1次処理外気空調機ダクト方式 その他／ファンコイル+空調機単一ダクト方式 冷凍機：蒸気吸収式冷凍機2台 ボイラー：オイル焚き蒸気ボイラー2台

衛生 給水：市水道よりφ150mmで分岐 給湯：セントラル方式（冷・暖房用熱源と共同） 消火 屋内消火栓 スプリンクラー ハロゲン消火 連結送水管



ロイヤルスウィートルーム Royal suite room.



国際会議場 International conference hall.

選評 横 文彦 大高 正人 倉本 佳亮

山口県宇部市は、かつて、良質な石炭を産出する日本の代表的な石炭の街であったが、今は、装置産業が盛んに操業する瀬戸内屈指の工業都市である。

ここに大工場を持つ宇部興産は、日本の大企業であるが、もとは宇部の石炭業にはじまり、宇部市民とは歴史的に結びつきが強く、利益をいろいろな形で市民に還元して、市民生活に少なからぬ寄与をして来た。その最初の大きな施設が宇部市民館である。創業者の一人、渡辺翁を記念して渡辺翁記念館ともよばれる。

まだ、オーデトリウムを殆どの都市が持たなかった時代に、今日でも少しも古くはない近代的なホールを企画して市に寄附した、先見性・文化性は驚くべきものである。そしてこの設計者が、事務所を始めて間もない、若い村野藤吾であった。

後に、大建築家となる作者をどのようにして選んだか？知るよしもないが、若い俊才に設計をすべてまかせた慧眼には感服せざるを得ない。

若い建築家は、それに答えて傑作を創造し、それが出世作となった。第2次大戦の末期、昭和19年に大学に入って建築をはじめた私が、はじめて雑誌の中に見た名建築が、この市

民館で、それが今も決して古くはなっていない。

このような経緯のあとで、故村野藤吾先生は、遺作を宇部市に残されることになった。これが今回、受賞された宇部興産ビルである。90歳を越える大建築家となった村野先生は、この建築の竣工を見ておなくなりになった。出世作と遺作と——宇部と村野先生とは奇しき縁に結ばれていたようである。

ビルの用途は、事務所・会議場・ホテルの複合になっており、空港と港のある宇部市が、都市機能を、もう一段レベルアップするためには是非とも必要な施設であって、将来、国際交流などに偉力を発揮するのではないかと思う。通常、このような第一級の施設は、なかなか持てるものではなく、採算を超えた宇部興産の企画によって、宇部市は少なからぬ利益を受けることになるだろう。

このような企画と、老練な設計を受けて、施工も風格のある仕上りになっており、無災害で完成した作業所の力量は敬服に値するものである。

施主の優れた企画、老練な設計、力量のある施工——三者それぞれに優れて一つになった宇部興産ビルは、まさに建築業協会賞にふさわしい建築である。

REVIEW Fumihiko Maki, Masato Otaka and Yoshiaki Kuramoto

The coal mines that once made Ube, in Yamaguchi prefecture, famous have mostly closed down now; and the city has become one of the leading industrial centers in the district of the Seto Inland Sea. The Ube Industrial Company, which originally dealt in coal, is one of the biggest organizations of its kind in Japan and has strong historical bonds with the local population. Furthermore it has contributed greatly to the quality of life in the district by returning much of its profits in one form or another to undertakings for the benefit of the citizens. The first of these was the Ube Public Hall, built in memory of Yusaku Watanabe, the founder of the company. With astounding foresight

and an appreciation of the value of culture, Mr. Watanabe planned a modern civic auditorium for Ube at a time when few cities in Japan could boast such a facility. The building was designed by the late Tōgō Murano while he was still young and was one of the works that helped make him famous. Though completed in 1944, in the last month of World War II, the auditorium still looks young today.

Mr. Murano died—over ninety years of age—not long after completing the Ube Industrial Building, which is a kind of legacy to the city from a great architect. It is somehow fitting that one of his first and one of his last buildings should both be located in Ube.

The need for a compound building of this kind, which includes offices, conference rooms, and a hotel, was strongly felt in connection with improving the urban-functional level of a city with both an airport and a harbor. It seems likely that the building will play an important part in future international exchanges and, since not many comparable cities can expect to have such a facility, will no doubt be of great advantage to Ube itself.

The undertaking itself, the sophisticated design, the construction, the dignified finishing, and the record of total safety all deserve the highest praise.

